



# 米国株 MARKET PICK UP



## 先週の米国株式市場—週初は反発も原油安を嫌気し週間で小幅下落—

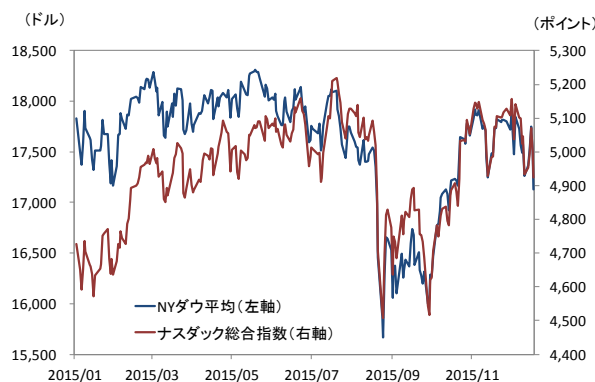
	前週終値	12月14日	12月15日	12月16日	12月17日	12月18日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	17,265.21	17,368.50	17,524.91	17,749.09	17,495.84	17,128.55	-136.66	-0.79%
騰落幅		+103.29	+156.41	+224.18	-253.25	-367.29		
S&P500	2,012.37	2,021.94	2,043.41	2,073.07	2,041.89	2,005.55	-6.82	-0.34%
騰落幅		+9.57	+21.47	+29.66	-31.18	-36.34		
ナスダック総合指数	4,933.47	4,952.23	4,995.36	5,071.13	5,002.55	4,923.08	-10.38	-0.21%
騰落幅		+18.76	+43.13	+75.77	-68.58	-79.47		

### ＜先週の概況＞

先週の米国株式市場は、ダウ平均が週間で136ドル安、S&P500は6ポイント安と小幅に下落しました。週の前半は原油価格の反発を好感し反発しましたが、週後半にかけて原油価格が再び下落するとリスクオフモードが広がり大きく下落しました。

ハイテク株比率の高いナスダック総合指数は一時5,000ポイントの節目を回復しましたが、週末には再び節目を割り込みました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



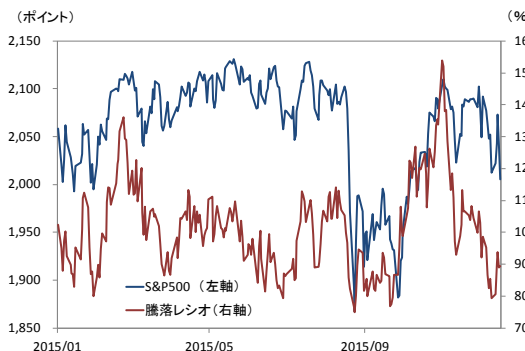
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

## 米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	15.5	3.0	2.6%
S&P500	17.0	2.7	2.2%
ナスダック総合指数	22.1	4.2	1.2%

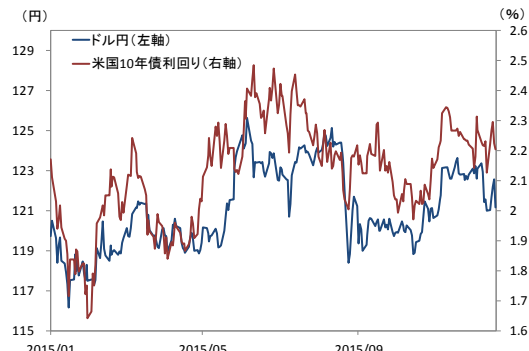
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2015年12月18日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

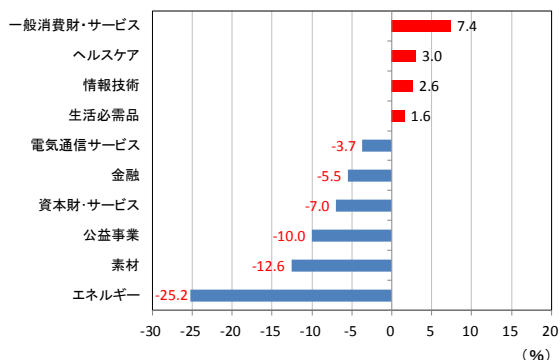
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

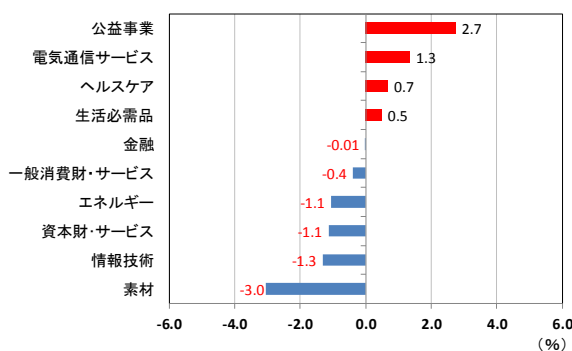
## 業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

## ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング(12/14-12/18)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
XOM	エクソンモービル	4.0
CVX	シェブロン	3.9
NKE	ナイキ	1.8
VZ	ベライゾン・コミュニケーションズ	1.7
KO	ザ コカ・コーラカンパニー	0.5
JPM	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー	0.5
MCD	マクドナルド	0.5
PG	プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー	0.4
CSCO	シスコシステムズ	0.4
TRV	トラベラーズ・カンパニー	0.3

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

値下がり率ランキング(12/14-12/18)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
DD	イー・アイ・デュポン・ドゥ・ヌムール	-10.0
AAPL	アップル	-6.3
MMM	3M	-5.1
BA	ボーイング	-3.5
AXP	アメリカン・エクスプレス	-1.4
INTC	インテル	-1.2
UTX	ユナイテッド・テクノロジーズ	-1.0
MRK	メルク	-1.0
WMT	ウォルマート・ストアーズ	-0.9
GS	ゴールドマン・サックス・グループ	-0.6

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

### <上昇>

ダウ平均採用の30銘柄中上昇が15銘柄、下落が15銘柄と上昇と下落が半々に分かれました。週の前半に原油価格が反発したことを受けエクソン・モービル(XOM)やシェブロン(CVX)が週間で約4%高と大きく上昇しました。

### <下落>

デュポン(DD)は、モノ言う株主がダウ・ケミカル(DOW)のCEOの解任を要求するなど合併を巡って不透明感が強まったことが嫌気され週間で10%の大幅安となりました。証券会社によるiPhoneの出荷台数見通し引き下げを受けアップル(AAPL)も大きく売られました。

## 先週発表された主な経済指標

### 連邦公開市場委員会（FOMC）結果発表

市場の予想通り、15日と16日に開催された連邦公開市場委員会（FOMC）で利上げが実施されました。具体的にはフェデラル・ファンド金利の誘導目標が0-0.25%から0.25-0.50%に引き上げられています。

イエレンFRB議長は記者会見で、今後の利上げペースが非常にゆっくりとなることを強調しました。公表されたFOMCメンバーの2016年末の予想FF金利は0.9-1.4%となっており、そこから逆算すると今後の利上げは四半期に1度かそれ以下のペースにとどまることを示唆しています。

さらにイエレン議長は「経済が想定通りに進展しなければ、我々は確実に利上げを休止する。」として、経済動向を見ながら柔軟な金融政策運営を行う決意を示しました。

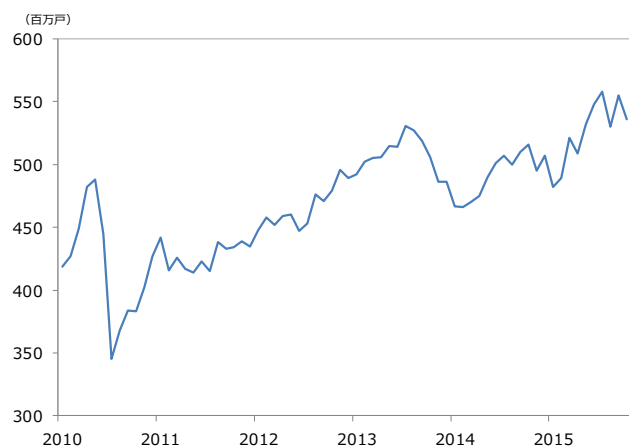
## 今後発表される主な経済指標

11月 中古住宅販売件数（年換算） 市場予想 534万件 前月 536万件

22日に11月の中古住宅販売件数が発表されます。グラフに示したように、米国の中古住宅販売は、回復基調を辿って入るものの足元でやや伸びが頭打ちとなっています。

堅調な伸びが実現できるか注目されますが、市場予想では前月の販売件数からやや鈍化すると見込まれています。

中古住宅販売件数（年換算・季節調整済）



（出所）トムソン・ロイターデータよりマネックス証券作成

## マーケットビューークリスマス休暇に入り小動きの展開かー

先週のマーケットビューーでは、騰落レシオからみると足下の米国株は売られ過ぎであり、短期的に反発が期待できるのではないかと記しました。予想通り米国株は月曜日から水曜日まで3日続伸しましたが、歯止めのかからない原油安を嫌気する格好で、木曜日金曜日と大幅に下落し結局週間では小幅安となりました。

今週はクリスマス休暇期間となり、重要経済指標の発表や取引参加者が少なく方向感が出づらいため小動きの展開が予想されます。足下のマーケットは原油安によるリスクオフムードが広がっており、そこに歯止めがかからない限り本格反騰は難しいとみています。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会